

会 議 録	
会 議 名	令和5年度第1回丸亀市総合教育会議
開催日時	令和5年6月27日（火）13：30～14：50
開催場所	丸亀市役所3階303・304会議室
出席者	<p><b>出席委員</b> 松永恭二（市長）、末澤康彦（教育長）、徳永秀文、松岡舟、福田康知（以上敬称略）</p> <p><b>事務局</b> 市長公室長 栗山佳子 （市長公室秘書政策課）課長 真鍋裕章、大川智</p> <p><b>市出席者</b> 教育部長 窪田徹也 （教育部総務課）課長 吉野隆志、副課長 土井節子 （教育部学校教育課）課長 岩井俊明、副課長 西山晋作 東中学校長 大西光宏、城乾小学校教頭 中明子 指導主事 鎌谷敦之</p>
議 題	(1) 日本語指導の現状と課題について
傍聴者	0人
発言者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	<p>ただ今から令和5年度第1回丸亀市総合教育会議を開会します。本日の協議事項は、「(1) 日本語指導の現状と課題について」の1件で、教育長より市長や教育委員の皆さんに、東中学校と城乾小学校で行っている日本語指導について、まずは知っていただきたいとの提案がありましたので、協議事項にさせていただきました。</p> <p>なお、本日の会議は、議事録作成支援システムを使用し、会議を記録しますので、恐れ入りますが、発言される際には、お手元のハンドマイクを使用し、発言するようお願いいたします。</p> <p>それでは最初に、東中学校の大西校長より説明をお願いします。</p>
大西校長	<資料に基づいて説明>
松永市長	外国にルーツがある生徒、外国籍生徒、取り出し生徒それぞれの定義について教えてください。
大西校長	<p>両親のうち一方の親が外国人である生徒のうち、日本国籍を選択した生徒は外国にルーツがある生徒、外国籍を選択した生徒は外国籍生徒に分類されます。</p> <p>取り出し生徒は、外国にルーツがある生徒や外国籍生徒のうち、日本語が不自由で授業についていけず個別指導を行っている生徒を指します。</p>

末澤教育長	<p>3点教えてください。1点目、取り出し生徒への個別指導が終了する基準はありますか。</p> <p>2点目、外国にルーツがある生徒や外国籍生徒が高校受験をする際、高校側からのサポートはありますか。</p> <p>3点目、日本語指導支援員7名について、もう少し説明をお願いします。</p>
大西校長	<p>1点目について、個別指導を終了する基準は設けていません。当該生徒のほとんどが高校進学を目指していることから、無事に高校進学できるよう卒業するまで指導を続けています。</p> <p>2点目について、高校受験の際、テスト問題にルビを振っていただくなどの特別なサポートはなく、他の受験生と同じように受験していますが、一部の高校に対しては、外国にルーツがある生徒が受験する旨を事前にお伝えしています。なお、令和4年度の進学先については、坂出商業高校、飯山高校、丸亀城西高校、藤井高校となっています。</p> <p>3点目の日本語指導支援員7名については、スペイン語やフィリピン語、タガログ語に対応した支援員が所属しており、生徒の指導や日本語のサポートを受けながら教科学習を進めていく「こくさい教室」における授業のサポートを行っています。勤務時間については、各支援員によって異なりますが、ローテーションを組み対応しているところです。</p>
福田委員	日本語指導支援員は、県費と市費で雇用していますか。
大西校長	県費と市費で雇用しています。
福田委員	外国にルーツがある生徒や外国籍生徒に不登校の生徒はいますか。
大西校長	令和4年度については、不登校の基準となる30日以上欠席した生徒はいませんでした。令和5年度についても、現時点で該当する生徒はいません。
福田委員	課題としてWi-Fiの設置を挙げていますが、普通教室で使用しているWi-Fiをこくさい教室で使用することはできませんか。
大西校長	こくさい教室を含めた全ての特別教室で使用できるわけではありませんので、通信環境の改善が必要と考えています。
徳永委員	<p>2点教えてください。1点目、指導体制について、担当教員はどういう方なのか、また、各教科担当教員と日本語指導支援員がどのように連携し指導を行っていますか。</p> <p>2点目、国際交流協会とどのように連携していますか。</p>

大西校長	<p>1点目について、担当教員2名は、県費で雇用された英語と社会の講師です。担当教員は主に指導する生徒の時間割を組んだり、日本語指導に来る生徒の母国語に対応できる日本語指導支援員を配置したりなどのコーディネート業務を行っています。</p> <p>また、本校の各教科担当教員と日本語指導支援員が連携して授業を行っており、支援員が授業内容について翻訳や通訳をしながら指導しています。</p> <p>2点目の国際交流協会との連携については、通訳の依頼や事務文書の翻訳をお願いしており、現在も様々なご協力をいただいているところです。</p>
徳永委員	各教科担当教員8名の専門教科を教えてください。
大西校長	国語、数学、英語、理科、社会の5教科に加え、美術や技術といった技能教科の教員が含まれています。
真鍋課長	続いて、城乾小学校の中教頭より説明をお願いします。
中教頭	<資料に基づいて説明>
松永市長	修学旅行などお金のかかる学校行事は、家庭への経済的負担がかかります。外国籍児童の経済状況について教えてください。
中教頭	本校に在籍している外国籍児童の家庭では、就学援助制度の申し込みをされるケースが多いと思っています。修学旅行などのお金がかかる行事については、事前に説明を行い、保護者の理解を得るようにしており、大半の児童が参加できています。
福田委員	リライト教材は誰が作成していますか。また、現在も香川大学と交流を行っていますか。
中教頭	<p>リライト教材は、日本語の習得が十分でない外国籍児童が、入国後の早い段階で在籍学級の児童と一緒に教科書の内容に取り組む際、原文を分かりやすい表現に書き換えたものになります。開室当時のこくさい教室担当教員が作成したものを適宜修正しながら授業を行っています。</p> <p>また、香川大学からは、毎年ボランティアに来ていただいております。低学年児童を対象とした入り込みでの授業の補助など、連携した取組を続けています。</p>
末澤教育長	こくさい教室担当教員2名は、臨時的任用教員であり、1年ごとの任用となっておりますが、外国籍児童の指導にあたっては、経験に基づく指導スキルや知識が必要と考えています。担当教員の勤務年数や経験に基づく指導スキルの重要性についてどう考えていますか。

大西校長	東中学校のこくさい教室担当教員2名の勤務年数は、両名ともに4年目を迎えており、生徒の家庭環境も把握していることから、保護者対応も十分にできている状況です。
中教頭	城乾小学校のこくさい教室担当教員の2名のうち、一人は8年目、もう一人は6年目と記憶しています。担当教員の豊富な経験に基づくコーディネートにより、子どもたちの成長を促しているほか、学級や家庭での過ごし方についても、気にかけていただいているところです。こうした指導スキルが途切れないよう、経験値の高い先生からの引継ぎを上手に行うために、3人体制での相互学習などを進めていく必要があると考えています。
徳永委員	こくさい教室を安心できる居場所にするためには、多くの課題があると思っています。現在、県費でこくさい教室担当教員を雇用していますが、市費による増員の検討が必要ではないかと考えさせられました。
福田委員	こくさい教室の指導をするためには、経験を積む必要があると思っています。そのため、現状の2人体制のままで続けていくと、いつか業務に支障をきたすのではないかと懸念しています。東中学校において、外国にルーツがある生徒に不登校の生徒はいないと説明をお聞きし、こくさい教室担当教員のきめ細かい対応が、こうした成果にもつながっていると感じています。
井下委員	家庭との連絡手段の確保において、保護者への説明に苦慮しているとありますが、緊急連絡は主に誰がしていますか。
中教頭	主に学級担任が連絡しています。城乾小学校では、外国籍児童が入学・編入した時に、家庭連絡票に必ず連絡が取れる人を複数人記載するようにしています。その際、勤め先や知人、親戚など、どなたでも良いので日本語ができる方の連絡先の記載をお願いしており、緊急時にも連絡が取れる体制を整えています。また、連絡する内容や誰に連絡するかなどのアドバイスを、こくさい教室担当教員が行っており、スムーズに連絡が取れるよう連携を取っているところです。
松岡委員	外国にルーツがある子どもたちが、様々な支援を受け、自分のなりたい職業に就き、社会で存在感を放っていく流れが構築されていくことで、社会で活躍する外国にルーツのある子どもが増えていくと考えています。この成長した子どもが、社会と自分たちのコミュニティをつなぐ役割を担ってくれるのではないかと期待するとともに、今後も見守っていきたいと思いました。
真鍋課長	最後に、学校教育課より説明をお願いします。

鎌谷	<p>&lt;資料に基づいて説明&gt;</p>
松永市長	<p>本日はお忙しい中、取組をお聞かせいただきありがとうございました。外国にルーツがある子どもたちは、今後も増え続けていくと考えており、日本語指導の充実については、取り組んでいかなければならない課題の一つであると認識しています。引き続き教育委員の皆さんのご意見を賜りながら検討していきたいと思ひます。</p>
末澤教育長	<p>こくさい教室に通う子どもたちをみるとすごく優しい印象を受けます。こうした優しさを守り、外国から来る子どもたちを丸亀市としてしっかり受け入れて行くことが、市政発展につながっていくのではないかと考えています。本日いただいた課題にしっかり取り組み、引き続き多文化共生社会の構築に努めていきたいと思ひます。</p>
福田委員	<p>今後は就学前教育においても、外国にルーツがある子どもたちに手を差し伸べる必要があると感じています。一方、その保護者へのきちんとした日本語指導も重要であると考えており、国際交流協会の日本語教室だけではなく、生涯学習部局における支援も必要になってくるのではないのでしょうか。いずれにしても、現状の小中学校だけではなく、丸亀市全体として、日本語指導の拡充を検討していただきたいと思ひます。</p>
真鍋課長	<p>その他、委員の皆様や事務局より何かご意見等ございますか。</p> <p>&lt;特になし&gt;</p>
真鍋課長	<p>ないようですので、本日の議題はこれで終了したいと思ひます。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>